

2015年8月24日発行



# 会員便り 第58号

公益社団法人 広島県社会福祉士会 広報委員会 編集  
〒732-0816 広島市南区比治山本町 12-2 広島県社会福祉会館内 TEL : 082-254-3019 FAX : 082-254-3018

ソーシャルワーカーデー2015ひろしま 開催



## ソーシャルワーカーを身近な存在に！ ～ 初の屋外イベント！熱い！ ～



病院内の相談の風景～寸劇（熱演！）の場面

去る7月20日正午から、JR広島駅前の地下街において第6回ソーシャルワーカーデーが開催されました。県内ソーシャルワーカー三団体（広島県社会福祉士会、広島県医療ソーシャルワーカー協会、広島県精神保健福祉士協会）の共催です。これまではもっぱら講義形式を主体とした内容でしたが、今回は初めてオープンな環境での開催です。「書を捨てよ、町へでよう」。これもひとつのアウトリーチとも考えられます。

今年是最初に中学生から大学生までからなる「ひろしまチア」の皆さんによるパフォーマンス。何度も何度もリハーサルされていました。本番、暑さ厳しい会場であっても絶えない笑顔。素晴らしい演技で通行人もたくさん立ち止まって鑑賞されていました。

次はトークセッションとして映像を交えながら仕事内容を紹介する「ソーシャルワーカーの一日」。登壇は、広島医療生活協同組合広島共立病院医療福祉相談室の寺尾花菜さん、障害福祉サービス事業所 Bee-Works 主任生活支援員の藤井知佳さん、廿日市市社会福祉協議会の中村真和さんの3名。司会進行は前理事の丸山法子さんでした。それぞれの職場のソーシャルワーカーの具体的な、生々しくも(?)面白い仕事の一端が市民の皆様様に理解して頂けたものと思います。



ここでちょっと一息。島根あさひ訓練センターから来て頂いた訓練士と盲導犬テラちゃん登場。暑い中お疲れさまでした。センター運営費にもたくさんの方々からご協力いただきました。ありがとうございました。

最後は「こんなときこそソーシャルワーカー」と題して病院内での相談風景の寸劇。認知症の本人・家族・相談員の3人でのやりとりに、スタッフはそうそう、と頷きながら名演技にニヤニヤ。その寸劇を受けて、NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会村上須賀子理事長による介護保険法の最近の動向に関する解説、会場との質疑応答でした。(次世代育成委員会 理事 三山 亮)

### 8月号

報告 ソーシャルワーカーデー2015ひろしま / 事務局長就任挨拶 / 報告 広島市相談員派遣協定が締結 / 報告 第23回 日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会(石川大会) / 広島県地域生活定着支援センター 現状 / 研修報告 西支部 / 勉強会報告 東支部 / 研修報告 北支部 / 会員紹介ルー / 知ってるつもり 島 マス / 研修イベント情報 / 編集後記

## 事務局長 就任のご挨拶

### 小西 哲郎



3か月間の試用期間を経て、7月1日付で事務局長に就任しました。  
この間、正副会長をはじめ、理事、会員の方々との様々な関わりを持たせていただき、広島県社会福祉士会の実相の一端に触れることができましたが、その感想は、「多様性、フットワーク、志」といった言葉で括られるのでしょうか。実際、多様な個性を持つ方々がおおり、総じてフットワークが軽く、また志の高さも印象的でした。  
このように感じた背景を考えると、「若さ」という言葉にたどり着きました。皆さん私より、一回りもふた回りも若い方々だったのだと、改めて気づかされました。今後、どのような出会いが待っているのか、期待しつつも、一方で「老害」と指摘されることへの不安をも抱えながら、事務局の一角を占めています。よろしくお祈りします。

## 報告 「広島市相談員派遣協定」が締結されました

### 副会長 平岡 和子

平成26年8月20日 豪雨災害被災者等のための生活再建相談事業として、広島市と「広島市災害復興支援士業連絡会」との「広島市相談員派遣協定」を締結し、平成27年7月28日には一行として広島市長を訪問しました。

最初に松井市長から、専門的な立場からの被災者支援に対する感謝の言葉を受けた後、士業連絡会会長代理の今田弁護士から「法律・技術系に福祉系の士業が加わり、全国でも例のない新しい試みである組織の利点を生かして、被災者支援に取り組みたい」と伝えました。この協定を受けて、住民が抱えている生活上の課題に応じて、士業連絡会の一団体である本会からも相談員を派遣することとなります。皆さまのご協力をお願いいたします。



写真：右から2人目が平岡副会長

## 報告 第23回 日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会に参加して

### 東支部 寒林 美穂子

マスコットキャラクター



7月4日（土）・5日（日）、第23回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（石川大会）に参加しました。大会テーマは「これからの福祉実践への架け橋～社会福祉とコミュニティの再考～」でした。今回は2日間の研修懇親会、オプションツアー（能登コース）全てに参加しました。2日目はD分科会「これからの福祉実践と地域支援」に参加し、「金沢市の善隣館という地域福祉の在り方」という発表に関心を持ちました。善隣館は生活困窮者を対象に「善隣思想（助け合いの心で、近隣の人と心を通わせ、支え合い、お互いに良き隣人を作っていく）」のもと、昭和初期、方

面委員が立ち上げた組織だそうです。地域福祉の原点に触れた思いがしました。また、社会福祉士として、地域福祉にどう関わり、どの様な役割を担っていけば良いのか、考える良い機会となりました。最後に、開催支部及び次回開催支部会員の方々の団結力の強さに感動しました。この団結力が次の活動へのエネルギーになっていくのだと思いました。

## 広島県地域生活定着支援センターの現在 『暮らしのやり直しを支援する』

### 広島県地域生活定着支援センター長 河合 知義

広島県社会福祉士会が地域生活定着促進事業を広島県から受託してこの6月でちょうど5年が過ぎました。県内の矯正施設には犯罪傾向の進んだ人を受け入れ、中国5県の医療センターも兼ねる広島刑務所（定員1476人）と、主として60歳以上の人を受け入れバリアフリーの床や手すりも設置されている尾道刑務支所（定員365人）があり、定着支援センターへの特別調整の依頼もこの5年間で190人をこえました。

この人数は全国でも5指に入ります。刑務所へ入ったのは初めての人が約30%、70%の人は2回以上の入所を経験しています。中には20回以上の入所歴がある人も3人います。県外へ帰った人が41人、相談の途中で特別調整を取りやめた人が20人。広島に住み始めてまた事件を起こし矯正施設への入所となった人も20人いますから、残りの110人が県内で暮らしておられます。

福祉サービスとつなぐことができたのは生活保護70人、障害者福祉手帳などの取得が36人です。特別調整になる前から障害者手帳などを持っていた人は22人いました。

特別調整後のフォローアップも含めてセンターの支援終了時点での居住先を見ると、民間アパートが48人、その他は高齢者施設、サービス付き高齢者住宅、障害者グループホーム、救護施設などです。救護施設の積極的な働きかけで施設からアパートでの一人暮らしを始めすでに2年を経過した人もおられます。

周りの支援者側からみると「一人暮らしは難しいのではないかと」思っても、本人がアパートでの一人暮らしを希望すればできるだけその方向で支援をしていくようにと考えています。また、長年途絶えていた親族との交流が、本人の生活が落ち着いてくる中、関係回復ができつつある人も数人おられ、私たちが仕事を続けていく上での大きな喜びです。

ひとりひとりの暮らしを聞いていると、成長期からすでに疎外・排除され、孤立した生活の中で犯罪へとつながらざるを得なかったのではないかと思えるような人がほとんどです。

町の中での小さな支えをたくさん作る中で、彼らの暮らしのやり直しを手伝ってあげたいなと考えています。



#### 解説 地域生活定着支援センターについて

高齢の方や障害のある方が矯正施設から退所した後に自立した生活を営むことが困難な場合、保護観察所と協働して、福祉サービスの利用を援助することなどにより、地域の中で自立した日常生活・社会生活を営むことができるよう支援します。主な業務としては、コーディネート業務（矯正施設入所中の人に対する支援）、フォローアップ業務（矯正施設を退所した人に係る支援）、相談支援業務があります。現在、センター長をはじめ、6人の職員がいます。

## 研修報告 西支部

### 「シネマの中の障害 蔵本順子さんをお迎えして」

西支部では4月26日広島市東区地域福祉センターにて、文化検証の側面から、映画の中で「障害」がどのように描かれてきたかについての学びの場を設けました。これまで、映画の中でその主テーマあるいは挿話的に様々な障害が描かれてきました。この度の研修では、RCCラジオ「蔵本順子のシネマトーク」で毎週映画紹介をされている「八丁座」「サロンシネマ」の蔵本順子さんをお招きし、その豊富な映画知識とともに、人間を見つめる温かい視線からのお話を伺うことができました。

取り上げられた映画は「レインマン」のようにとても有名なものから、単館系の知る人ぞ知るといふものまで幅広いものでした。蔵本さんのお話は映画内容の紹介でまず参加者にイメージを伝えた上で、「障害」にまつわる登場人物の関係性や心情を語っておられました。

とても感動的な時間を持つことができ、普段の研修と異なる視点で学びを深めることができました。(会長 河口 幸貴)



## 勉強会報告 東支部

### 「障害者の差別解消と合理的配慮について学ぶ ～経緯とこれから～」



6月13日(土)広島県立福山若草園 主任支援員 金野敬氏による勉強会が開催されました。参加者は18名でした。日本社会福祉士会主催「障害者の地域生活支援研修」で学ばれたことについて教えてくださいました。障害のある人にとって「合理的配慮」は、社会参加あるいは生活を送っていく上で健常者と同じスタートラインに立つための手段とされます。「合理的配慮」とは、障害者から何らかの助けを求める意思の表明があった場合の、負担になり過ぎない範囲の、社会的障壁を取り除くために必要な便宜のことです。障害者制度の合理的配慮についての意味合いを知

り、考える機会をいただいた貴重な勉強会となりました。(理事 中居 朝美)

## 合同研修会報告 北支部

### 「生活困窮者自立支援事業について ～備北地域の現状～」

北支部では7月4日(土)、庄原市・三次市介護支援専門員連絡協議会、広島県介護福祉士会第4ブロックとの共催による合同研修会を行い、各団体等から28名の参加がありました。

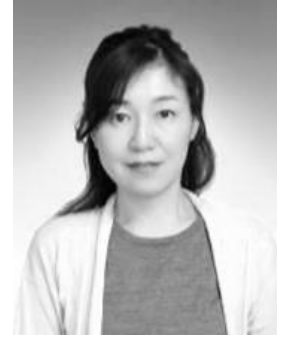
『生活困窮者自立支援事業について～備北地域の現状～』と題し、三次市・庄原市の行政担当者から、制度概要や背景についての説明、続いて三次市の受託者である「地域包括支援センターみよし(生活サポートセンター)」と庄原市の受託者である「庄原市社会福祉協議会(自立相談支援事業たんぼ)」から事例を含めた事業の現状について報告を受けました。

事業開始から数か月経過した時点でも、本人を取り巻く環境の複雑さから数々の課題が出ており、社会福祉士として、支援を通じた“地域づくり”という役割を果たすためにも、関係機関と協働していく必要性を感じました。(松田 ひろみ)



## 会員紹介レー

### 西支部 <sup>りゅうば</sup> 龍場 <sup>みちよ</sup> 三千代 ～患者さまへ寄り添う～



#### 広島大学病院 患者支援センター 医療相談員

◆大学病院でのお仕事についてお聞かせください。

医療相談室では、患者さんに安心して治療をうけていただけるよう、入院や通院における心配事当院に対するご意見などを面談によりお伺いします。患者様の様々な問題と一緒に向き合うこととなります。

◆お仕事をすることで心がけている事は何かですか。

患者様は病気と向き合う過程で外的内的な変容を伴い、その途上で苦痛を克服されなければならないこととはご承知の通りです。乗り越えることが難しいときに、『助けて』の思いをいろいろな方法で表出されます。声にならない『助けて』の思いにも耳を傾け、患者様の問題の要因を取りこぼさないよう細心の注意をはらいます。そして社会資源を組入れながらひとつずつ問題の所在に解決策を時宜に応じて当てていきます。『患者様の支援は諦めることはなく、本人や家族などの主体性を損なわない』を心情に、毎日取り組んでいます。

◆リフレッシュの方法についてお聞かせください。

現在、忙しくて時間を作る事が難しいのですが、買い物の中にはできるだけ歩く機会を作っています。散歩をすることがリフレッシュになっています。

## 知ってるつもり…?

### 島 マス 沖縄の社会福祉の母

1900(明治33年)～1988年(昭和63年) 沖縄県沖縄市



1900年に美里間切伊波村(現うるま市)で生を受ける。沖縄県女子師範学校を卒業し、小学校の訓導(教師)として教育者の道を歩む。沖縄戦にて最愛の子供を戦争で亡くし、命からがら戦禍を生き延びる。49歳の年に、教員生活に終止符を打ち、米民政府より任命された越来村の厚生員として、荒廃した戦後沖縄の人々の救済に乗り出して行く。

子供を抱え、生きていくために特殊飲食街で働く母親に、「特殊飲食街で働くことをやめろというのは簡単だ。それよりも先に職業を与えてやるのが、私の役目だ」と言って、どん底にいる母親たちに手に職をつけさせるための職業訓練に奔走する。また、犯罪を犯し軍裁判にかけられた子供たちの身柄を引き取り、「胡差児童保護所」をつくって、子供たちの更生に全力で取り組む。さらに、窃盗や特殊飲食街で保護された少女たちのために、自分の土地に「コザ女ホーム」を開設し、彼女たち

と共に生活する。マスがつくったこの二つの施設は、後に琉球政府の管轄へと移管されるが、それは、児童福祉法などの制度がない時代に、マスの情熱と行動、そして彼女を信頼し支えた人々がなした福祉の姿であった。

その後、58歳の年に、中部地区社会福祉協議会の事務局長に就任。民間福祉の要である社協職員、「社協人」として、地域の福祉社地図をつくるなど、実態調査に基づく科学的な福祉事業を進めるとともに、組織をつくり、人を育て、精力的に福祉活動を展開する。88年の生涯を閉じるまで、ひたすら、「チムグリサン(心が痛む)」の心を信条とし、他人の苦悩や悲しみと寄り添い続けた。

【参考資料 : Wikipedia 政策シンクタンクPHP総研 沖縄赤十字奉仕団 HPほか】



## 研修&イベント情報

### 北支部主催 実践報告会

日時 平成27年10月24日(土) 15:00~17:00  
 場所 三次市福祉保健センター 4階ふれあいホール:三次市十日市東三丁目14-1  
 内容 ソーシャルワーク実践報告(基礎研修I「中間課題」の参考にしてください)  
 佐藤 信二 さん 社会福祉法人 慈照会 ケアハウス菩提樹(施設経営)  
 若林 輝則 さん 一般社団法人 スイス村(フリースクール、若者自立支援)  
 奥田久美子 さん 社会福祉法人 庄原市社会福祉協議会(高齢者福祉)

参加費 100円

### 東支部主催 実践報告会

日時 平成27年10月25日(日) 14:00~16:00  
 場所 尾道市総合福祉センター:尾道市門田町22番5号  
 内容 14:00~14:30 東支部全体会  
 14:30~16:00 勉強会・実践報告会  
 長谷川 佳子さん(福山市北部包括支援センター)  
 藤井 慎二さん(大田記念病院 地域支援課)  
 柏原 英彦さん(障害者生活支援センター あおぎり)

定員 30名 参加費 500円



### こども家庭支援委員会主催 スクールソーシャルワーク勉強会

※詳細は、ホームページにて確認ください。

日時 平成27年11月3日(火) 13:00~16:30(開場12:30)  
 場所 広島市東区総合福祉センター ボランティア研修室  
 内容 13:00~14:20 「子ども支援の難しさとその背景」  
 広島県立大学人間福祉学科 准教授 田中聡子さん  
 14:30~16:30 「現場からの報告と質疑応答」  
 広島市教育委員会、児童家庭支援センター 山崎美恵子さん、  
 スクールソーシャルワーカー 伊藤由美子さん

定員 30人 参加費 会員1000円 会員外1500円 学生無料  
 対象者 学校現場で活躍されている会員、その他、関心のある皆様、学生



## 編集後記

熱中症、  
 暑い、つけんさいよ~



☆日々、介護保険制度改正に伴う8月からの利用者負担額変更の為に奔走。1割、2割の確認作業が増えると思うと・・・涙(藤浴) ☆祝・芥川賞受賞「火花」。御多分に洩れず、読んでみました。ミーハーな性分を再確認。これも自己覚知(井唯) ☆車の運転中、道の前方に大輪の花火が見え感激でした。ぜひ皆様も夏の風物詩を楽しんでくださいませ(山根) ☆この夏、見たい映画ばかり。「夫婦50割引」を使える年齢になつていくのもこれまたしあわせ(丸山) ☆子供を保育園に預け仕事復帰。早速「熱が出た」とお迎えコール。事前に調べた地域資源をフル活用。嗚呼37、5℃の涙(藤井) ☆今年の夏は暑いですねー熱帯夜が続き、寝不足です。朝起きるのが辛くて困ります。エアコンちゃんと使おう…(酒井) ☆お盆は家族や懐かしい人に会えて嬉しいです。忙しく支度をしていた母を思い出します(坂本) ☆全世界の1人1人が命の大切さを本当に理解したとき、この式典はなくなってしまうのかなあ。それとも…。平和記念式典を息子とみながらドキリとさせられた1言でした(巴) ☆暑さにやられ、日焼けしないようにと夜活動。紫外線遮断。熱中症に注意です(幸本)